

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復実技5							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名			実務経験	
鍼灸学科・夜間部	2年	1・2期	速畑 篤史			○	
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	柔道整復実技			実技	1	20	
科目概要							
柔道整復師として必要な中手骨、指骨、肋骨骨折の知識、臨床症状を理解し、身に付けるべき診断・整復・固定・後療法・患者管理・指導を習得を目指す							
目標							
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	柔道整復師として臨床現場で患者のニーズに応えられるようになるために、骨折の診断及び固定法、後療法、予後の見通し等の基礎的な知識と治療法の習得を目標とする。						
	到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	1 中手骨、指骨、肋骨骨折の発生機序を聴取できる 2 聴取した骨折の発生機序を説明できる 3 患者に治療方針や治療方法、予後について説明できる 4 説明し同意を得た後に整復、固定等の処置を行える。 5 全体的、局所的に患者の管理が出来る					
履修に必要な予備知識や技能							
①負傷部位毎の発生機序 ②負傷部位毎の固定体位 ③負傷部位に施す基本包帯法							
教科書・参考書							
柔道整復学・実技編							
受講上の注意							
①専用上履き・白衣着用・頭髪、爪等の衛生上の管理、腕時計・指輪等は外すこと ②原則携帯電話、スマートフォン等の使用禁止 ③動画撮影は禁止 ④実技中は悪ふざけしたり、危険行為や他の学生に不快な思いをさせる行動・発言・態度はしないこと ⑤以上の注意事項や指示に従えないものには退室を命じることもある							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)				90		10	100
実技試験実施要項							
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	ペネット骨折			実技編 P172～176	筆記用具、白衣		
第2回	ペネット骨折			実技編 P172～176	筆記用具、白衣		
第3回	ペネット骨折			実技編 P172～176	筆記用具、白衣		
第4回	中手骨骨幹部骨折			実技編 P171～181	筆記用具、白衣		
第5回	中手骨骨幹部骨折			実技編 P171～181	筆記用具、白衣		
第6回	中手骨頭部骨折			実技編 P182～190	筆記用具、白衣		
第7回	中手骨頭部骨折			実技編 P182～190	筆記用具、白衣		
第8回	中手骨頭部骨折			実技編 P182～190	筆記用具、白衣		
第9回	指骨骨折 (基節骨基部骨折)			実技編 P191～198	筆記用具、白衣		
第10回	指骨骨折 (基節骨基部骨折)			実技編 P191～198	筆記用具、白衣		
第11回	指骨骨折 (基節骨骨幹部骨折)			実技編 P198～202	筆記用具、白衣		
第12回	指骨骨折 (基節骨骨幹部骨折)			実技編 P198～202	筆記用具、白衣		
第13回	指骨骨折 (中節骨掌側板付着部剥離骨折)			実技編 P202～204	筆記用具、白衣		
第14回	指骨骨折 (中節骨骨折)			実技編 P205～208	筆記用具、白衣		
第15回	マレットフィンガー			実技編 P282～287	筆記用具、白衣		
第16回	マレットフィンガー			実技編 P282～287	筆記用具、白衣		
第17回	肋骨骨折			実技編 P417～420	筆記用具、白衣		
第18回	肋骨骨折			実技編 P417～420	筆記用具、白衣		
第19回	定期試験				筆記用具、白衣		
第20回	解説 復習				筆記用具、白衣		
実務経験と本講義との関連について							
1991年4月より接骨院にて8年間経験を積み、1999年から練馬区にて開業。 現在も業務を営みながら日々の外傷治療の経験を活かし、柔道整復の基礎的な技術から応用まで実技指導を行う。							
メールアドレス							
toohata-t@nihonisen.ac.jp							